

解説

④ 4 「頑張れ、頑張れ」(38・7)という少年の言葉から、応援する気持ちが読み取れる。

③ 3 少年が心に迷いを抱えていた最初の場面では、「どんよりと曇った」(36・2)空模様であったが、迷いが晴れた最後の場面では、その心境を映し出す

② 読む(文字→) 飛べ かもめ

考えを深める 少年の思いの変化について考えを持とう。

1 少年の思いの変化についてまとめよう。

(1) 少年の思いは、この作品の初めと終わりでどのように変化しましたか。「迷い」という言葉を一度以上使って説明しよう。

例 初めは心に迷いを抱えていたが、終わりは、迷いが晴れて前向きな心境になった。

(2) 少年の思いが変化するときになったのは、どんな出来事ですか。

例 自分の意志と力て、懸命に羽ばたいて前進するかもめの姿を見たこと。

3 「どこまで雨が上がったか、湖に大きな虹が出ている。」(36)とありますが、作品の最後で、この文はどんな役目を果たしているといえますか。次から一つ選び、○を付けなさい。

A 少年の目に映る空模様の変化を、虹によって強調している。

イ 少年の心に明るく性根を、大きな虹によって表現している。

ウ 少年の心情の変化を、雨上がりの虹の情景に反映している。

E 少年の変化しやすい心理状態を、空模様で映し出している。

3 雲三層面から、かもめの様子と少年の思いを深める

1 「少年の目に、かすかに虹かにした。」(36)について、次の問いに答えなさい。

(1) どのようなことが起こって、少年は、目に涙をにじませたのですか。

例 鳥が力尽きたように視界から消えたこと。

4 「今は、鳥が自信喪失(じぶんざうしつ)した。」(36)とありますが、このとき少年はどのような気持ちでしたか。次から一つ選び、○を付けなさい。

A 列車と同じ速度で飛ぶことができるかもめの能力に驚かされ、感嘆する気持ち。

イ 意気地なしの自分を励ますために飛んでくれているかもめに、感謝する気持ち。

ウ かもめがどんな理由でこれほど必死に飛んでいるのかわからず、不思議な気持ち。

3 「我知字(わがし)を諦(あきら)めた。」(36)とありますが、少年がこのようになったのはなぜですか。次の□に字数の合った言葉を書きなさい。

自分は **暖房の効いた列車** の中にのんびりと **座つて** いるのに、かもめは、 **自分の翼** を懸命に羽ばたいて前進しているから。

杉みき子ってどんな人?

杉みき子は、一九二〇年、新潟県上越市(現在の土曜町)に生まれた児童文学作家です。児童文学の大家である小川未明が同じ小学校の出身で、刺激を受けたといわれています。雑誌の新聞「新潟日報」の家庭欄(かてい)に「お母さんの童話」に一九二四年から作品を応募し、選者(せんしや)の森田(もりた)は才能を見いだされました。一九二五年には「かみき子の歌」で児童文学者協会(こどもぶんがくかい)新人賞(しんじんしょう)「一九二三年には「小さな虹の国の物語」で小学館(しょうがくかん)文学賞(ぶんがくしょう)「一九二三年には「小さな虹の国の物語」で小学館(しょうがくかん)文学賞(ぶんがくしょう)で赤い短編(たんぺん)賞(しょう)を受賞(じゆうしょう)しています。作品には、地元(じよん)の庵田(あんでん)を舞台(うたい)にした伝説(でんせつ)が多く、童話(どうわ)に響(こた)える人々の生活(せいかつ)を描(えが)きながら、その上(うへ)に思(おも)いかけないドラマ(ドラマ)を織(を)り込む(おみこ)む特徴(とくちょう)があります。

2 「飛べ、かもめ」の一部を朗読(らうどく)するとし、次の問いに答えなさい。

(1) 「飛べ、かもめ」の第一・第三場面のうち、最も好きな場面を選び、漢数字(わんじすう)を書きましよう。

例 第二場面

(2) (1)選んだ場面を朗読(らうどく)するとき、だいたいしたい言葉(ことば)や文(ぶん)を選び、書きましよう。

例 列車(れっしゃ)なんかにはけるな、僕(ぼく)なんかにはけるな。

少年の心の中の言葉に注目しよう。

2 「少年の心に、何が、びんと糸(いと)を張(は)る。」(36)について、次の問いに答えなさい。

(1) これは、少年の心にどのような思いが芽生(め)えたことを表(あらわ)していますか。次から一つ選び、○を付けなさい。

A 空を飛(と)ぶ鳥(とり)のように、自分も小さなことにはこだわらず自由(じゆう)に生きようという思い。

イ 消えていった鳥(とり)のように、自分も力が及(およ)ばないときにはきっぱり諦(あきら)めようという思い。

ウ 列車(れっしゃ)に負けまいと飛(と)ぶ鳥(とり)のように、自分も強い相手(あいて)を見つけて競争(きさつ)しようという思い。

エ 必死(めいじつ)で飛(と)んでいた鳥(とり)のように、自分も力を尽(つ)くして一生(いっせい)懸命(けんめい)に前進(ぜんしん)しようという思い。

(2) (1)のように思った少年は、このあとどんな行動(こうどう)をしようと思(おも)いましたか。

例 次の駅(えき)で降りて、砂浜(すな)を走(は)って帰(かえ)る行動(こうどう)。

(2) このとき少年はどんな気持ちでしたか。次から一つ選び、○を付けなさい。

A 鳥(とり)の頑張(がんば)りを感(か)めたたまる気持ち。

イ 鳥(とり)が姿(すがた)を消(き)えたのを悲(かな)しむ気持ち。

ウ 鳥(とり)がどうなるのか心配(しんぱい)する気持ち。

E 鳥(とり)が追(お)いつくのを期待(きたい)する気持ち。

17

適切な言葉を調べよう 新聞(しんぶん)をえびの(イ)とした気配(きばい)。

ア コリコリ イ ぶりぶり

適切な言葉を選びよう (ア) 声(こゑ)で働き合う二羽(ふたば)の鳥(とり)。

ア 華麗(われい) イ 野太(のたい)

16

② 読む(文字→) さんちき

車大工(くるまぢゆう)の生き方

(4) 戸締(とぢめ)まりをした親方(おやぢ)は、侍(さむらい)の生き方(いきかた)と比較(ひかく)しながら、「(車大工)の仕事(しごと)について話(はな)した。自分(自分)たちの作った車(くるま)は「わしより」(長生き)するんや。」など語(かた)った。(46ページ10)行(ぎょう)終わり)

侍(さむらい)の生き方

(3) 不意(ふい)に外(と)で物言(ものごと)がし、二人(ふたり)は確(た)かめに行く。そこには、何者(なにもの)かに斬(き)られた(侍)が、無念(むねん)の形相(かたち)で倒(た)れていた。(46ページ3行、48ページ9)行)

三吉(さんきち)と親方(おやぢ)

(2) 最後の字(じ)の途中(ちゆうちゆう)で、三吉(さんきち)は親方(おやぢ)に見つかった。何をしていたのかと問(と)いたなされ、彫(う)った字(じ)が間違(まちが)っていると指摘(しゆさ)される。結局(けいこく)、三吉(さんきち)は「(さんちき)」と名前(な)を彫(う)り、親方(おやぢ)は「(元治元)年中(げんじげん)五月二十日」と日付(ひふ)けを彫(う)り込んだ。(43ページ4)行(ぎょう)46ページ34行)

三吉(さんきち)のたくらみ

(1) 三吉(さんきち)は、自分(自分)が作った矢(や)に自分の(名前)を彫(う)らうとして、夜中(よるちゆう)に起き出(で)した。(親方)が起きてこないように気を配(き)りながら、彫(う)り進(すす)めていた。(初(はつ)め43ページ3)行)

2 親方(おやぢ)は、自分(自分)たちが作った車(くるま)は、これから何年(なんねん)持つ(もつ)と言(い)いましたか。(百)年

3 場面(ばんめん)ごとにあらすじをまとめ、小説(せうせつ)の流れ(ながれ)を知(し)りましよう。

2 思いを深める 読む(文字→)

準備(じゆんび)する 全文(ぜんぶん)を読み、時代背景(じだいはいけい)やあらすじを把握(はくわく)しよう。

1 この小説(せうせつ)の時代(じだい)や舞台(うたい)にならている場所(ばしょ) ①主人公(しゅじんこう)について、次の□に字数(じすう)の合った漢字(かんじ)を書きましよう。

(1) 江戸(えど)時代の終(お)わり頃(ころ) 京都(きょうと)の町(まち)の端(はた) 幕府(ばくふ)の政治(せいぎ)のや方(かた)に侍(さむらい)を輩(は)り出す派(は)い(侍)が、それを取り締(と)まる 新選組(しんせんぐみ)が斬(き)り合(あ)いなどをすするために、物騒(ぶつそう)な夜(よ)が続(つづ)いている。

(2) 主人公(しゅじんこう)の三吉(さんきち)は、車大工(くるまぢゆう)の「車伝(くるまでん)」に弟子(でし)入りして、五年(ごねん)ようやく、祇園祭(ぎげんまつり)の練(れん)の車(くるま)の矢(や)一本(いっぽん)本(ほん)はされるようになった。

18

19

適切な言葉を選びよう 説明(せ明明)けが正(ただ)しくなり変化(へんか)が(イ)。

ア 東(あづま)はむ イ 白(しろ)

適切な言葉を選びよう 299-302ページで調べよう。

イ 野太(のたい)

18

② 読む(文字→) さんちき

車大工(くるまぢゆう)の生き方	48	無念(むねん)	悔(く)しいこと。残念(ざんねん)なこと。
侍(さむらい)の生き方	46	学(まな)びがある	知識(ちしき)が豊富(ふじゅう)である。
三吉(さんきち)のたくらみ	43	物言(ものごと)がし	何(なに)かが起きそう(そう)で危険(きけん)な様子(ようす)。
親方(おやぢ)	46	物騒(ぶつそう)	夜(よ)が騒(さわ)がしく、危(あや)しな様子(ようす)。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	縁(ゆかり)がない	文(ぶん) 絵画(えが)には縁(ゆかり)がない生活(せいかつ)をしている。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	めくるめく	文(ぶん) 例(れい) 父(ちち)に叱(な)られて、首(くび)をすくめる。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	うたがた	文(ぶん) 例(れい) 力(ちから)がなく首(くび)を垂(た)れる。うつむく。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	いせわしな	文(ぶん) 例(れい) 落ち着(お)きがない。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	理屈(りくつ)	文(ぶん) 例(れい) 物事(ものごと)の筋道(すじみち)。論理(ろんり)。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	とたんに	文(ぶん) 例(れい) すぐに同(どう)時に。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	首(くび)をひね	文(ぶん) 例(れい) 納得(なつと)がいかず、首(くび)をひねる。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	おろおろ	文(ぶん) 例(れい) 驚(おど)きや悲(かな)しみのために、うろたえる。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	目(め)の色(いろ)を変える	文(ぶん) 例(れい) 怒(おど)りや驚(おど)きのために、目(め)つぎを(か)える。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	学(まな)びがある	文(ぶん) 例(れい) 知識(ちしき)が豊富(ふじゅう)である。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	無念(むねん)	文(ぶん) 例(れい) 悔(く)しいこと。残念(ざんねん)なこと。
親方(おやぢ)と三吉(さんきち)	43	類(るい) 瀬戸際(せとぎは) 直前(ちか)	文(ぶん) 例(れい) 根柢(ねぢ)や根柢(ねぢ)がない様子(ようす)。むやみ。

② 読む(文字→) さんちき

準備(じゆんび)する 全文(ぜんぶん)を読み、時代背景(じだいはいけい)やあらすじを把握(はくわく)しよう。

1 この小説(せうせつ)の時代(じだい)や舞台(うたい)にならている場所(ばしょ) ①主人公(しゅじんこう)について、次の□に字数(じすう)の合った漢字(かんじ)を書きましよう。

(1) 江戸(えど)時代の終(お)わり頃(ころ) 京都(きょうと)の町(まち)の端(はた) 幕府(ばくふ)の政治(せいぎ)のや方(かた)に侍(さむらい)を輩(は)り出す派(は)い(侍)が、それを取り締(と)まる 新選組(しんせんぐみ)が斬(き)り合(あ)いなどをすために、物騒(ぶつそう)な夜(よ)が続(つづ)いている。

(2) 主人公(しゅじんこう)の三吉(さんきち)は、車大工(くるまぢゆう)の「車伝(くるまでん)」に弟子(でし)入りして、五年(ごねん)ようやく、祇園祭(ぎげんまつり)の練(れん)の車(くるま)の矢(や)一本(いっぽん)本(ほん)はされるようになった。

② 次の言葉をなぞり、漢字(かんじ)の右側(みぎがは)に読み仮名(よみか)を書きましよう。

(★ 新選組(しんせんぐみ) ● 新選組(しんせんぐみ))

① ① 引(ひ)き締(と)まる ② 伸(の)びる ③ 縛(ば)る ④ 叫(こゑ)ぶ

⑤ 学(まな)ぶ ⑥ 学(まな)ぶ ⑦ 学(まな)ぶ ⑧ 学(まな)ぶ ⑨ 学(まな)ぶ ⑩ 学(まな)ぶ

⑪ 堅(かた)い ⑫ 斜(な)め ⑬ 寝(ね)る ⑭ 怒(おど)る

⑮ 待(まち)た ⑯ 研(けん)ぐ ⑰ 吹(ふ)く ⑱ 物(もの)を感(か)える

⑲ 倒(た)れる ⑳ 肝(かん)心(しん) ㉑ 黙(もく)る ㉒ 削(け)る

㉓ 生(なま)む ㉔ 駭(おど)か ㉕ 驚(おど)か ㉖ 消(け)る

㉗ 産(う)む ㉘ 腕(うで) ㉙ 腰(こし) ㉚ 情(なさけ) ㉛ 押(お)す

② 次の語句(ごくう)について、辞書(じしょ)を使って調べよう。

(驚(おど)か 驚(おど)か 文(ぶん) 文(ぶん) 驚(おど)か 驚(おど)か 驚(おど)か 驚(おど)か)

必死(めいじつ) 懸命(けんめい) 全力(ぜんりき)

18

適切な言葉を選びよう 299-302ページで調べよう。

イ 野太(のたい)

適切な言葉を選びよう 299-302ページで調べよう。

イ 野太(のたい)

18